



①福引きの引換券を配る串本ふるさと大使の村上ショージさん ②串本古座高校吹奏楽部による演奏 ③多くの見物客で賑わう古座港 ④歌に合わせて踊りが披露されました



古座川を彩る打ち上げ花火

祭の最後には、花火が古座川を美しく彩り、見物客を魅了しました。

7月24日 熊野水軍 古座河内祭の夕べ

24日の夕方から「熊野水軍古座河内祭の夕べ」が古座港にて行われました。

串本古座高校吹奏楽部による演奏、各団体の女性部や婦人会、古座小学校の児童による古座橋小唄・古座節などが披露され、会場を盛り上げました。

串本ふるさと大使で吉本興業所属の芸人、村上ショージさんが忙しい合間を縫って祭に参加。福引きの引換券を配ったり写真撮影に応じたりして地元の方々と積極的に交流されていました。

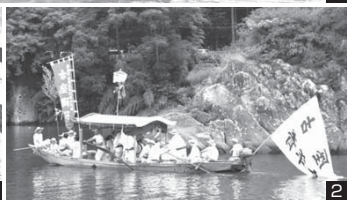


1

①ご神体である小島(河内様)を礼拝する御舟 ②笛、太鼓を演奏しながら花火を打ち上げる獅子舞伝馬 ③生き神様の役目を担う「ショウロウ」 ④神事の様子 ⑤権伝馬 ⑥獅子舞 ⑦ササラ天狗



3



2



7



6



5

7月23日、24日 河内祭

こうち

河内祭は、のぼりや折り紙などで華やかに飾られた古式捕鯨の鯨舟である御舟が、古座川の河口から3km上流にあるご神体『河内様(地元発言でコオッタマ)』と呼ばれる小島を拝礼するものです。御舟は、河内様の神が宿る「河内大明神」という神額を運ぶ大切な役割を担っており、御舟の運航に合わせて場面ごとに歌われる御舟謡も聴き所のひとつです。23日の宵宮では河内様まで御舟が遡上して夜籠り神事が執り行われ一夜を過し、24日は河内様前の河原にて、古座青年会、古田区民会、古座川町高池の互盟社により獅子舞が奉納されました。また、地元の中学生が漕ぎ手となる権伝馬の競漕も行われました。

今年4月、河内祭の御舟行事が熊野灘の捕鯨文化にまつわるストーリー「一鯨とともに生きる」のひとつとして日本遺産に認定。御舟の華麗な姿にカメラを向ける観光客が多く見られました。

7月24日 みなとオアシス 登録証交付式

熊野水軍古座河内祭の夕べの会場となった古座港一帯が国土交通省の「みなとオアシス」に認定され、24日、登録証交付式が行われました。

「みなとオアシス」とは、港の資源を活用し、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる地域交流拠点として国土交通省地方整備局が認定・登録するものです。

登録により、みなとオアシスのシンボルマークの使用や国土交通省のホームページ等による広報、道路標識設置の支援などが受けられます。



近畿地方整備局田所篤博副局長(左)より登録証を受取る田嶋町長(右)